

アジアに架ける虹の橋 アジア生協協力基金活動報告書 2015



はじめに

アジア生協協力基金は、一般公募を始めてから6年目を迎えようとしています。この5年間、延べで48組織に約3,200万円の助成を行ってきました。

2014年度に初めて助成対象となったアーシャ^{※1}は、北インドで有機農業組合の運営強化と人材育成を支援しています。助成金は現地スタッフの日本での研修旅費などに充てられ、生産者と消費者との信頼関係の大切さなどが習得できたと報告されています。農業生産者の支援は、PHD協会^{※2}がネパール、APLA^{※3}が東ティモール、14年度が助成3年目となったSeed to Table ～ひと・しぜん・くらしつながる～^{※4}がベトナムで、それぞれ取り組みを進めています。助成金は研修の充実などに役立てられました。シェア^{※5}は、タイでエイズ予防の啓蒙活動を行っています。現地運営の確立と自立に向けて指導に当たるスタッフの移動旅費などに助成金が活用されました。地球の友と歩む会は、3年間、助成金で購入したミシンで女性グループの縫製技能をステップアップさせ、経済的自立への歩みを支えてきました。

十分とはいえない助成金ですが、現地の人材育成に注がれることにより、それぞれの活動・事業の将来的発展に向けた芽吹きがもたらされました。各団体のご奮闘に感謝と敬意を表したいと思います。

国際協力助成事業においても、人材育成は重要なキーワードです。昨年と同じくコープネット事業連合とみやぎ生協、コープこうべのご協力により開催された「生協マネジャー研修」では、アジアの生協店舗のマネジャーが実践的に学びました。幹部を育てる生協経営ワークショップは14回目を迎えました。生協開発ワークショップには各国から136人もの受講者が集いました。ICA-AP生協委員会会議に続いて開催された生協セミナーの14年度のテーマは「生協の環境活動」でした。大学生協連のキャンパス生協委員会セミナーでは各国の学生や職員が交流し、医療福祉生協連の企画では韓国の医学生が日本の医療福祉生協の事業や活動を学びました。

アジア生協協力基金は、諸組織のアジアでの活動から学びながら、より一層開かれた基金へと成長すべく努力を継続したいと考えております。今後も引き続き、みなさまのご協力をお願い申し上げます。

※1 アジアの農民と歩む会<ASHA>／※2 PHDは「Peace（平和）、Health（健康）、Human Development（人づくり）」の頭文字／※3 「Alternative People's Linkage in Asia=人びとが創るもうひとつのアジア」の頭文字／※4 Seed to Tableは「タネから食卓へ」／※5 国際保健協会市民の会<Share（わかちあい）>

2015年6月

公益財団法人 生協総合研究所

専務理事 芳賀 唯史

はじめに	1
------	---

目次	2
----	---

第1章 アジア生協協力基金の概要	3
1. 設立の経緯	4
2. 2014年度アジア生協協力基金の基本財産と一般正味財産	4
3. アジア生協協力基金運営委員会	5
4. 寄付の方法	5
5. 財務関係報告資料	6

第2章 2014年度の活動報告	11
1. 2014年度の助成事業の概況	12
2. 2014年度の助成事業のまとめ	13
3. 2015年度の事業準備活動	13
4. 2014年度各企画の決算概要	14
①国際協力助成企画	14
②一般公募助成企画	15
5. 個別活動報告	16

2015年度の活動計画	29
第3章 1. 2015年度計画決定の経緯	30
2. 2015年度事業計画	30
3. 2016年度の一般公募について	32



第 1 章

アジア生協協力基金の概要

- 1 設立の経緯
- 2 2014年度アジア生協協力基金の基本財産と一般正味財産
- 3 アジア生協協力基金運営委員会
- 4 寄付の方法
- 5 財務関係報告資料

第1章 アジア生協協力基金の概要

1 設立の経緯

アジア生協協力基金は、1987年に日本生活協同組合連合会（以下、日本生協連）とその会員生協、日本生協連役職員、傘下企業の寄付金によって、アジアの生協・協同組合の発展への貢献と交流・協力活動の推進を目的に設立されました。なお2015年3月末の基金の基本財産は、約8.8億円です。全国の生協から寄せられた寄付金は、1989年、日本生協連によって同年に設立された財団法人・生協総合研究所（以後、生協総研）に移管され、1991年より運用益を利用してアジアの生協を対象とした役職員の研修事業などが実施されてきました。現在、韓国、ベトナム、インド、シンガポールなどの国々の生協は、それぞれの国の流通業界の中で大きな役割を發揮していますし、また、医療生協や大学生協も活躍しています。

こうした生協には、日本で研修を受けた役職員が活躍しています。2009年、生協総研は、公益財団法人に移行しましたが、これに伴い、アジア生協協力基金もより公益性を發揮することが求められました。このため日本国内に拠点を有する非営利組織・グループへの助成を開始しました。助成の対象事業は、アジア各国で展開される事業で、住民の協同の力で社会的経済的分野での開発や問題解決を目指すプロジェクトです。とりわけ人材開発事業や事業の立ち上げのための活動が対象となります。初年度の2010年度は5組織6事業に約370万円、以後、2011年度は6組織に400万円、2012年は7組織に400万円、2013年度は9組織に500万円、2014年は6組織に約500万円の助成がなされました。

2 2014年度アジア生協協力基金の基本財産と一般正味財産

2014年度の基本財産と一般正味財産（利息）は以下のようになります。

(1) 基本財産

①2014年度期首残高	: 879,657,684円 (2014.4.1現在 94生協+日本生協連等)
②2014年度内基金受増額	: -54,300円

＊上記金額は、満期保有目的の債券の取得価額と額面価格の差額を償却原価法（定額法）によって処理した金額です。

③2014年度期末残高	: 879,603,384円 (2015.3.31 94生協+日本生協連等)
-------------	--

(2) 一般正味財産の増減

①2014年度期首(2014年4月1日):	35,388,884円
-----------------------	-------------

②2014年度期中の増減

・増加

受取利息等	: 15,123,277円
-------	---------------

・減少

i) 国際協力助成企画	: 5,091,646円
-------------	--------------

アジア生協協力基金から国際協力助成企画として日本生協連・国際活動委員会企画（7企画）を助成した金額です。

ii) 一般公募助成金 (6組織)	4,927,739円
iii) 基金運営費用	749,646円
iv) 2014年度活動報告書作成費	556,780円
v) 事務管理費	2,154,235円
減少合計	: 13,480,046円
③2015年3月31日の2014年度期末残高 : 37,032,115円	

(3) 2015年度期中の受取利息見込み

有価証券および定期預金の運用により約1,508万円の収益を見込んでいます。

3 アジア生協協力基金運営委員会

2009年5月、生協総研理事会は、「公益財団法人における公益目的事業としての位置付けを明確にするために、アジア生協協力基金の運営に関する事業計画の起案、公募企画の募集・選考、事業報告の検討のために、理事会の下に運営委員会を設置し、運営委員会の議を経て理事会が意思決定を行う」ことを決定し、運営委員を選任しました。2014年6月の生協総研・第1回理事会でアジア生協協力基金の運営委員を選任しました。

委員会の構成は、生協総研の理事および評議員と外部専門家の5名となっています。現在の委員は以下の通りです。

委員長；古田 元夫（東京大学附属図書館長、大学院総合文化研究科教授、生協総研理事）

委 員；赤石 和則（拓殖大学国際開発教育センター長、国際学部教授）

委 員；湯本 浩之（宇都宮大学 留学生・国際交流センター准教授）

委 員；新保 雅子（コープこうべ理事、日本生協連理事、生協総研評議員）

委 員；山本 伸司（パルシステム連合会理事長、日本生協連常任理事、生協総研評議員）

4 寄付の方法

アジア生協協力基金への寄付は、（公益財団法人）生協総合研究所が申し受けます。寄付金の振込先は、生協総研のアジア生協協力基金専用口座になります。アジア生協協力基金への寄付をご希望の方は事務局へご連絡ください。

5 財務関係報告資料

◆2014年度アジア基金助成費 明細

助 成 先	備 考	金 額 (円)
① 日本生活協同組合連合会	国際活動委員会国際企画	5,091,646
小計		5,091,646
② 一般公募		
アーシャ=アジアの農民と歩む会		900,000
公益財団法人PHD協会		700,000
地球の友と歩く会		796,600
APLA		812,019
シェア=国際保健協力市民の会		900,000
Seed to Table		819,120
小計		4,927,739
③ 基金運営費		
運営委員会出席者 出席手当・旅費・宿泊費	3回分	224,190
運営委員会出席者 お昼代	2回分	1,500
運営委員会出席者 懇親会費	3回分	181,586
運営委員会 コーヒー代	2回分	15,990
一般公募報告会参加者旅費	7名分	56,666
2014年度一般公募プレゼンテーション参加者旅費	6名分	107,204
国際活動委員会参加費		136,144
振込み手数料、送料		26,366
小計		749,646
④ 2013年度活動報告書作成費および送料	送料 40,000円	556,780
⑤ 事務管理費		2,154,235
生協総研 ① 人件費	1,857,610	
② その他管理費(家賃・OA機器・通信費・消耗品)	296,625	
合 計		13,480,046

◆アジア生協協力基金

貸 借 対 照 表

2015年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
普通預金	21,719,550	19,032,279	2,687,271
未収入金	2,506,800	3,513,374	△ 1,006,574
定期預金	15,000,000	15,000,000	0
流動資産合計	39,226,350	37,545,653	1,680,697
2. 固定資産			
(1)基本財産			
普通預金	6,076,424	6,077,589	△ 1,165
投資有価証券	873,550,704	873,581,260	△ 30,556
固定資産合計	879,627,128	879,658,849	△ 31,721
資産合計	918,853,478	917,204,502	1,648,976
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,217,979	2,157,934	60,045
流動負債合計	2,217,979	2,157,934	60,045
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	879,603,384	879,657,684	△ 54,300
指定正味財産合計	879,603,384	879,657,684	△ 54,300
2. 一般正味財産			
一般正味財産	37,032,115	35,388,884	1,643,231
正味財産合計	916,635,499	915,046,568	1,588,931
負債及び正味財産合計	918,853,478	917,204,502	1,648,976

◆アジア生協協力基金

2014年度 正味財産増減計算書

2014年4月1日～2015年3月31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	15,113,489	15,090,055	23,434
積立資産受取利息	15,113,489	15,090,055	23,434
雑収益	9,788	9,309	479
受取利息	9,788	9,309	479
経常収益計	15,123,277	15,099,364	23,913
(2) 経常費用			
事業費	13,480,046	13,250,128	229,918
人件費	1,857,610	1,867,394	△ 9,784
助成費・運営費	11,325,811	11,092,194	233,617
物件費	296,625	290,540	6,085
経常費用計	13,480,046	13,250,128	229,918
当期経常増減額	1,643,231	1,849,236	△ 206,005
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
特定資産運用益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,643,231	1,849,236	△ 206,005
一般正味財産期首残高	35,388,884	33,539,648	1,849,236
一般正味財産期末残高	37,032,115	35,388,884	1,643,231
II 指定正味財産増減の部			
特定資産運用益	12,383,002	12,359,498	23,504
一般正味財産への振替額	△ 12,437,302	△ 12,390,055	△ 47,247
当期指定正味財産増加額	△ 54,300	△ 30,557	△ 23,743
指定正味財産期首残高	879,657,684	879,688,241	△ 30,557
指定正味財産期末残高	879,603,384	879,657,684	△ 54,300
III 正味財産期末残高	916,635,499	915,046,568	1,588,931

◆資料

アジア生協協力基金・生協別寄付金一覧表

(単位:円)

生協名	寄付金額	生協名	寄付金額	生協名	寄付金額
北海道生協連	450,000	コープいしかわ	26,000	浜通り医療生協	20,000
コープさっぽろ	6,400,000	福井県民生協	349,279	郡山医療生協	200,000
小計	6,850,000	めいぎん生協	6,033,650	はるな生協	200,000
弘南生協	200,000	みかわ市民生協	719,510	東京保健生協	200,000
秋田県生協連	200,000	コープぎふ	800,000	東京ほくと医療生協	200,000
コープあきた	200,000	コープみえ	330,000	川崎医療生協	200,000
岩手県学校生協	200,000	コープしが	2,270,000	神奈川北央医療生協	100,000
いわて生協	1,021,000	ならコープ	1,821,263	ながおか医療生協	100,000
みやぎ生協	6,100,000	わかやま市民生協	600,000	富山医療生協	200,000
生協共立社	600,000	京都生協	4,000,000	みなと医療生協	1,000,000
コープふくしま	1,550,000	大阪いずみ市民生協	9,000,000	南医療生協	200,000
福島県南生協	100,000	エスコープ大阪	50,000	北医療生協	100,000
コープあいづ	800,000	大阪北生協	4,597,471	乙訓医療生協	100,000
小計	10,971,000	おおさかパルコープ	4,500,000	よどがわ保健生協	100,000
いばらきコープ	1,500,000	生協連合会きらり	50,000	ヘルスコープおおさか	300,000
パルシステム茨城	100,000	コープこうべ	68,600,000	医療生協かわち野生協	200,000
とちぎコープ	1,060,000	神戸大学生協	200,000	尼崎医療生協	300,000
コープぐんま	420,600	小計	103,947,173	神戸医療生協	200,000
ドゥコープ	200,000	おかやまコープ	2,200,000	姫路医療生協	400,000
生活クラブ生協千葉	200,000	生協ひろしま	2,200,000	岡山医療生協	200,000
ちばコープ	5,000,000	鳥取県生協	100,000	広島中央保健生協	200,000
さいたまコープ	4,000,000	生協しまね	403,630	広島医療生協	200,000
パルシステム東京	300,000	コープかがわ	500,000	松江保健生協	200,000
生活クラブ生協東京	600,000	香川県庁生協	64,000	愛媛医療生協	100,000
東都生協	1,000,000	とくしま生協	200,000	高知医療生協	200,000
コープとうきょう	12,000,000	愛媛県生協連	100,000	くるめ医療生協	100,000
岩崎通信機生協	19,600	コープえひめ	350,000	鹿児島医療生協	200,000
シチズン生協	10,000	こうち生協	100,000	小計	5,720,000
大学生協連	1,500,000	小計	6,217,630	その他	1,084,600
東京大学生協	300,000	福岡県生協連	100,000	会員生協合計	206,547,374
パルシステム生協連合会	1,900,000	エフコープ	2,000,000	日本生協連	655,651,097
生活クラブ連合会	1,200,000	佐賀県学校生協	30,000		
コープかながわ	20,679,779	ララコープ	300,000		
生活クラブ生協神奈川	265,000	コープおおい	300,000		
長野県生協連	200,000	大分県職員生協	2,000		
コープながの	1,060,000	コープみやざき	895,600		
長野県庁生協	1,800	コープ熊本学校生協	50,000		
新潟総合生協	500,000	水光社	200,000		
新潟県職員生協	1,618	コープかごしま	2,000,000		
コープしずおか	10,860,974	コープおきなわ	1,000,000		
小計	64,879,371	小計	6,877,600		

※生協総合研究所が本基金の移管を受けた2009年時点での寄付金一覧です。合併などによる生協名の変更を反映してありません。

※「その他」は、主に2008年以前に日本生協連から脱退した生協分の寄付金です。

第 2 章

2014年度の活動報告

- 1 2014年度の助成事業の概況
- 2 2014年度の助成事業のまとめ
- 3 2015年度の事業準備活動
- 4 2014年度各企画の決算概要
 - ①国際協力助成企画
 - ②一般公募助成企画
- 5 個別活動報告

第2章 2014年度の活動報告

1 2014年度の助成事業の概況

◆国際協力助成企画

2014年度の国際協力助成企画では、国際協同組合同盟・アジア太平洋地域（ICA・AP）の生協委員会が域内の協同組合と協力して企画・実施した5件と、日本医療福祉生活協同組合連合会、全国大学生生活協同組合連合会の企画した2件、計7件の事業が実施されました。

ICA・AP生協委員会が選抜したアジアの生協店舗のマネジャーが日本の生協で約2週間研修する「生協マネジャー研修」は、第1回が2014年7～8月にコープネット事業連合とみやぎ生協で、第2回が11月にコープネット事業連合とコープこうべで行われました。研修生は、店舗等の見学や講義を通じて学び、最後に帰国後の実践課題を作成しました。

シンガポールで6月に開催された第14回経営ワークショップは、ICA・AP生協委員会の推薦を受けた幹部の学ぶ場であり、日本からも講師を派遣しました。スリランカで12月に開催された「生協開発ワークショップ」は、2010年から開始された南アジアの生協を対象としたもので、2014年の受講者は136人に上りました。4人の講師の一人を日本から派遣しました。

また、ICA・AP生協委員会は、その定例会議に合わせて、テーマを定めた学習の場を作ってきました。9月に開催されたインドネシアでのセミナーのテーマは「生協の環境活動」でした。全国大学生協連は、インドネシアのバリで開催された「ICAアジア太平洋地域大学／キャンパス生協委員会」で助成金を使用し、学生の参加を支援しました。医療福祉生協連では、将来の医療を担う医学生を対象とした「日韓医学生交流」を企画し、生協で働くことの意義を学びあいました。

◆一般公募企画

一般公募企画では6企画が実施されました。2012年度からの助成対象であり2014年度で3年目の助成となったのが、地球の友と歩む会とSeed to Table。前者はインド南部の女性たちによる縫製技術習得と製品の販売、後者はベトナム・メコンデルタの貧農たちによる有機野菜栽培と現金収入による生活改善事業です。

残りの4組織は2015年度の助成対象でもあります。シェアは、タイ東北部でのエイズ予防組織の運営力強化のために人材育成に取り組んでいます。PHD協会は、ネパールで有機野菜のブランド化による農業収入の増加を目指してきました（2015年4月に発生した大地震の影響が心配されています）。APLAは、東ティモールで「コーヒーだけに頼らない地域づくり」を目指して生産者グループが協働を進め、2014年には女性グループの1つが生産者協同組合登録を果たしました。アーシャ＝アジアの農民と歩む会は、北インドで有機農業組合が日本のさまざまな技術に学びながらリーダーの育成と組合活動の強化を進めています。

2 2014年度の助成事業のまとめ

2014年度助成事業の執行状況以下のとおりでした。

①国際協力助成企画（日本生協連・国際活動委員会）の承認した7企画がすべて執行され、予算600万円に対して5,091,646円の執行（執行率：84.9%）となりました。生協マネジャー研修で、スリランカからの研修生2人のビザが取れなかったため来日できず、3人で実施したことから、決算金額が予算を下回りました。

②一般公募企画は6件すべてが実施され、600万円の予算に対して4,927,739円が執行（執行率：82.1%）されました。一般公募企画は助成先を選定する審査の結果、助成総額が4,995,720円となり、予算と比較して助成総額そのものが小さくなっています。また、APLAから最終的な支出額が助成額よりも67,981円下回ったということで返金要請があり、それを受理しました。

事業経費では、③2013年度の活動報告書「アジアに架ける虹の橋・2014年度版」の発行・送付経費として556,780円（予算60万円）、④アジア生協協力基金・運営委員会開催経費等として749,646円が支出されました。また、⑤事務管理費は2,154,235円でした。事務管理費を除いた決算額は11,325,811円と予算執行率は84.5%でした。

3 2015年度の事業準備活動

2015年度のアジア生協協力基金の予算枠組みは、一般正味財産の動向をもとに、日本生協連・国際部との協議を経て、生協総研第1回理事会（2014年7月31日）に提案、承認されました。国際協力助成金・600万円、一般公募助成金・600万円を予算大枠としました。

一般公募を、2014年10月1日から11月30日まで生協総研のホームページやJANICなどの協力を得て広報し、26組織からの応募をいただきました。2014年12月の書類審査、2015年1月のプレゼンテーション審査を経て、7組織への助成・5,997,000円を理事会に提案しました。国際協力事業については、日本生協連・第2回国際活動委員会（2014年12月19日開催）において大学生協連と医療福祉生協連の2件も含めて7件の事業・600万円の予算案が作成され、2015年2月5日の生協総研第4回理事会で、一般公募企画も含めて、原案通り決定されました。



国際協力助成企画 ICA/COOPFEDスリランカ生協
開発ワークショップの海外からの参加者たち



一般公募企画 APLA 活動評価のワークショップでは、
夜遅くまで議論が続けられた

4 2014年度各企画の決算概要

	2014年度予算(円)	2014年度決算(円)	執 行 率
国際協力助成	6,000,000	5,091,646	84.9%
一般公募	6,000,000	4,927,739	82.1%
2014年度版活動報告書等	600,000	556,780	79.7%
運営委員会関連経費	800,000	749,646	93.7%
計	13,400,000	11,325,811	84.5%
事務管理費	2,100,000	2,154,235	102.6%
総計	15,500,000	13,480,046	87.0%

① 国際協力助成企画

企画内容		予算(円)	決算(円)
1	生協マネジャー研修 (みやぎ生協、コープネット事業連合コース) (インド、ベトナム、フィリピン)	1,750,000	1,156,772
2	生協マネジャー研修 (コープこうべ、コープネット事業連合コース) (シンガポール、ベトナム)	1,750,000	1,750,000
3	生活協同組合開発ワークショップへの講師派遣(スリランカ)	500,000	458,807
4	ICA-AP生協委員会主催 生協経営ワークショップへの講師派遣(シンガポール)	400,000	336,739
5	ICA-AP生協委員会主催 生協セミナーへの講師派遣(インドネシア)	300,000	89,328
6	(全国大学生協連)ICAアジア太平洋地域大学/ キャンパス生協委員会セミナー(インドネシア)	400,000	400,000
7	(医療福祉生協連)日韓医学生交流	900,000	900,000
合計	(予算執行率:84.9%)	6,000,000	5,091,646

② 一般公募助成企画

申請者		事業概要	助成額(円)	執行額(円)
1	特定非営利活動法人シェア (国際保健協力市民の会)	エイズプロジェクト運営能力向上およびタイ新財団組織運営強化のための人材育成研修	900,000	900,000
2	公益財団法人PHD協会	「くらしの拠点」づくり～生協店舗がコミュニティの核になることを目指して～	700,000	700,000
3	特定非営利活動法人APLA	東ティモール・エルメラ県のコーヒー生産者グループの協同性の強化ならびに次世代リーダー育成	880,000	812,019
4	NPO法人アーシャ＝アジアの 農民と歩む会 (ASHA)	北インド・アラハバード県における有機農業組合運営強化と人材育成	900,000	900,000
5	特定非営利活動法人 地球の友と歩む会 (LIFE)	ミシン縫製技能研修と服飾販売促進のための店舗開店、それに伴う組合づくり	796,600	796,600
6	特定非営利活動法人 Seed to Table ～ひと・しぜん・くらしつながる～	有機農産物生産者グループの設立と市場へのアクセス改善による貧困世帯の生計改善事業(2ヵ年計画)	819,120	819,120
合計	(助成総額に対する執行率:98.6%) (2014年度予算600万円に対する執行率:82.1%)		4,995,720	4,927,739

5 個別活動報告

国際協力助成企画 ①

実施組織名 | 日本生活協同組合連合会

ICAアジア太平洋地域生協委員会選抜生協マネジャー研修

助成金額 1,156,772円 実施期間 2014年7月25日～8月10日 相手国 フィリピン、ベトナム、インド

◆店舗実習では商品の陳列方法も学びました

1) 活動・事業報告

研修生は以下の3人でした。

- ・ リガヤ アダム バーバディロ (フィリピン・女性)
フィリピン・アドテンコ多目的協同組合
コープマート店長
- ・ ポー ホア アン (ベトナム・男性)
ベトナム・サイゴンコープ・マーケティング部長
- ・ タナジ マルティ デヘル (インド・男性)
インド/シリー・ワラナ生協・店長

研修生たちは研修のはじめに日本生協連で日本の生協の概要説明と日本生協連の商品政策について学びました。

その後、コープネット事業連合で、コープみらいと事業連合の概要説明を受けた後、環境配慮型店舗および店舗や組合員から回収したペットボトル、宅配チラシ、アルミ缶のリサイクルを行うエコセンターを見学しました。

みやぎ生協では、「商品仕入政策」、「商品の品質管理」、「組合員活動」、「店舗プロモーション計画」、「みやぎ生協の産直コンセプト」、「被災時のみやぎ生協の取り組み」、「職員教育」などのプログラムで研修が行われました。

店舗実習では、商品陳列や生鮮品パック作業を体験しました。

最終日には、研修の総括会議があり、研修生たちは、自組織の抱える問題点、研修で学んだことを帰国後に

どのように活かしたいか、また、そのための行動計画をみやぎ生協の役員の前で発表しました。

東日本大震災の後のみやぎ生協の取り組みに関しては、説明の後、震災資料館を見学し、震災の恐ろしさと生協が地域のなかで果たしている大きな役割をあらためて認識しました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

スリランカからの研修生2名を予定していましたがビザが取れずに研修開始直前にキャンセルとなりました。

今年から「組合員活動」の講義を新たに追加し、研修生は日本の組合員がどのようにして生協の活動に出資・利用・経営に参加しているか学ぶことができました。



産直の現場を訪問(みやぎ生協)



大越専務理事から概要説明を受けました(みやぎ生協)



店舗で商品の陳列を学ぶ研修生(みやぎ生協)

国際協力助成企画 ②

実施組織名 | 日本生活協同組合連合会

ICAアジア太平洋地域生協委員会選抜生協マネジャー研修

助成金額 1,750,000円

実施期間 2014年11月9日～11月23日

相手国 シンガポール、ベトナム

◆コープこうべの店舗事業の業務改革戦略も学ぶことができました

1) 活動・事業報告

研修生は以下の5人でした。

- ・ チョン チー シャン（シンガポール・男性）
フェアプライス生協・店長
- ・ タン ウェイ ヘン（シンガポール・男性）
フェアプライス生協・店長
- ・ ヤップ ヤオゾング（シンガポール・男性）
フェアプライス生協・店長
- ・ グエン フー ダイ（ベトナム・男性）
サイゴンコープ・店長
- ・ グエン チン ドン（ベトナム・男性）
サイゴンコープ・店長

研修生は、コープネット事業連合、コープこうべの研修を前に、日本生協連で日本の生協の概要とコープ商品政策について学びました。

コープネット事業連合では、組織概要の紹介を受け、エコセンター、さいたまコープニッ宮店を見学し、環境対策の取り組みも学びました。

コープこうべでは、全体概要の紹介ののち、「店舗事業における業務改革」、「品質保証」、「職員教育」、「宅配事業」、「お申し出分析と組合員満足」、「接客教育」、「プライベートブランド商品の開発」などの講義を受け、店舗実習を行いました。

ベトナム、シンガポールの2つの組織は、労働力の確保が厳しい環境下、労働生産性の向上が大きな課題の一つになっています。店舗事業の業務改革として取り組まれている「ワークデザイン」にもとづく「作業計画表」による業務管理についての関心が強く、活発な質疑が行われました。

な質疑が行われました。

両国ともに小売業界での競争環境は厳しくなっています。競合との差別化には、カスタマーサービスが重要であるという認識を共有し、職員の接客力向上のための取り組みを学びました。特にサイゴンコープでは、生協を管轄する法令の改正が2016年施行予定のため、他の小売業との差別化のためにはサービスの向上と職員教育は不可欠だとの報告がありました。

コープこうべでの研修最終日には、研修生たちは、課題、学んだこと、行動計画を発表し、自分の組織や業務のなかで、今回の研修をどのように活かしていくかを報告するとともに、研修生からコープこうべへの業務改善に関する提言も行いました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

今回の研修生は研修生全員が店長であったため、研修生同士の問題意識が似ており、研修中、研修生同士の学びの共有が活発に行われていました。今回の研修を通じて、研修生はコープこうべの店舗運営の概要だけでなく、事業改革に関わる戦略についても学ぶことができ、知識の幅を広げることができました。

夕食宅配の商流の説明を熱心に聞く研修生(コープこうべ)



店舗物流センターで現場を見学する研修生(コープネット)



研修終了後、コープこうべの役員から修了証が手渡されました

国際協力助成企画 ③

実施組織名 | 日本生活協同組合連合会

ICA/COOPFEDスリランカ生協開発ワークショップへの講師派遣

助成金額 458,807円

実施期間 2014年12月3日

相手国 スリランカ

◆スリランカ、ネパール、マレーシア、シンガポール、
日本から136人が参加しました

1) 活動・事業報告

2014年12月3日にスリランカ・コロンボにてICA-AP生協開発ワークショップを行いました。このワークショップは、南アジア地域連合（SAARC:インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、モルジブ、アフガニスタン）地域の生協開発を目的としています。

今回のワークショップのテーマは「チェーンストアマネジメント」でした。スリランカ国内からは、2人の有識者が「スリランカの協同組合法」および「スリランカの生協の概要」について講義が行われました。

国外からは、2人の講師を招へいし、シンガポールのNTUCフェアプライス生協の研修センター研修マネージャーのジュリアナ・タン氏が「シンガポールNTUCフェアプライス生協の概要」、コープさっぽろの店長教育コンサルタントの阿部整治氏が「チェーンストア理論と良い店舗づくり」の講義を行いました。

ジュリアナ氏の講義では、フェアプライス生協の事業を4つのポイント（よりよい事業を行う、正しい事業を行う、社会に対していい事業を行う、ともに事業を行う）に分け、フェアプライス生協のミッション、商品の安全への取り組み、店舗形態、効率的な事業を行うためのシステム、CSR、現在直面している課題について解説しました。また、スリランカの生協につ

いて、小さな生協がバラバラに事業を行うのではなく、もっと協同組合間の連携を強め、ともに事業を行えば、大きな量で商品を仕入れ、コストを抑えることができるなど、さらに効率的に事業を行うことができるのではないか、という提言がありました。

阿部氏の講義では、チェーンストアの定義、歴史、商品、組織に関する原則と、店舗の立地選定、適正規模、レイアウトなど、良い店舗づくりについて説明がありました。また、良い店舗とは、決して店舗側の運営上の便利さを第一の目的とするのではなく、利用者の目線でお店、売場、商品サービスを観察し、あるべき方向に修正していくことが大切であると説きました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

スリランカ国内の協同組合、また国外からはネパール、マレーシア、スリランカ、シンガポール、日本から合計136人の参加がありました。

アジア基金の助成金は、今回のワークショップのスリランカ国外からの講師、ジュリアナ氏・阿部氏の旅費に充てられました。

参加者は、ワークショップを通じ、チェーンストア理論、また店舗運営について学び、よりよい生協事業運営のための知識を深めることができました。



フェアプライス生協 ジュリアナ氏の講義



参加者による、活発な意見交換の様子

国際協力助成企画 ④

実施組織名 | 日本生活協同組合連合会

ICA/フェアプライス シンガポール生協経営ワークショップへの講師派遣

助成金額 336,739円

実施期間 2014年6月23日～26日

相手国 シンガポール

◆参加者は生協事業について活発に論議しました

1) 活動・事業報告

このワークショップは、ICA-AP生協委員会加盟組織の推薦を受けた協同組合の幹部を対象にした研修プログラムです。シンガポール・フェアプライス生協の事業概要および生協事業に関わるケーススタディの講義を特別講師から受けることを目的としています。

今回の参加者はベトナム4人、フィリピン1人、スリランカ4人、シンガポール1人、マレーシア4人、インドネシア2人、日本人6人(「フェアプライス生協若手職員海外選抜研修」でシンガポールに派遣されている各生協の職員)、講師+事務局13人の計35人で実施されました。

フェアプライスからは、4人の講師に小売、仕入れ、販売、国際貿易など、フェアプライスの様々な分野について説明を受け、物流センター、店舗を訪問しました。

さらに、アジア生協協力基金の助成金を活用し、以下の2人を特別講師として招へいし、組織のケーススタディを講義していただきました。

1. Nguyen Anh Duc サイゴンコープ CEO代理：「ベトナムの小売市場、サイゴンコープの概要・挑戦」

2. Ho Ha Minh サイゴンコープ・フェアプライス 有限責任会社 営業部長：「外国企業とのビジネス連携」

2) 助成金を受けての成果とその評価

参加者は特別講義を通じて、2人の講師から、以下の点を学びました。

1. Nguyen Anh Duc講師

ベトナム小売業の現状およびサイゴンコープの概要について説明を受け、現在サイゴンコープが直面している挑戦課題と対応策を学びました。

2. Ho Ha Minh講師

ジョイントビジネスベンチャー論の解説を聞き、外国ビジネスパートナーの選び方、運営時顧慮すべき事項などについて学び、サイゴンコープとフェアプライスの共同事業の事例について紹介を受けました。

研修後、集計されたアンケートでは、全体的にプログラム全体の評価は概ねよく、特にサイゴンコープの特別講義の評価が高かったです。また、たくさんの刺激と啓発を得たというコメントもいただき、今回の研修の参加者の満足度は高かったと評価します。



フェアプライス生協の活動概要について説明するシャー・キャンペンCEO



グループワークで熱心に討論する研修生たち



店舗視察もしました



サイゴンコープの活動概要を説明するDuc CEO代理

国際協力助成企画 ⑤

実施組織名 | 日本生活協同組合連合会

ICA-AP生協委員会主催 生協セミナー

助成金額 89,328円

実施期間 2014年9月17日

相手国 インドネシア・バリ

◆環境に配慮しながら事業を進める重要性について学びました

1) 活動・事業報告

2014年9月17日にインドネシア・バリで開催されたICA-AP生協委員会会議に続き、「生協の環境活動」をテーマにしたセミナーが開催されました。セミナーでは、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）のインドネシア事務局長イブ・デシ・クスマデウイ氏が「RSPOの活動概要」について、韓国iCOOP協同組合開発センター所長チョン・ウォンカク氏が「iCOOP KOREAの環境保全活動」について報告を行いました。

RSPOは、環境に配慮した持続可能なパーム油の生産を求める声に応え、WWF（世界自然保護基金）と7つの関係団体が2004年に設立した非営利組織です。パーム油産業をめぐる7つのセクターの関係者（パーム油生産業、搾油・貿易業、消費者製品製造業、小売業、銀行・投資会社、環境NGO、社会・開発系NGO）の協力のもとで運営されています。セミナーでは、RSPOの

概要、持続可能なパーム油の定義、RSPOの認証油マークの紹介、認定方法などについて説明をしていただきました。クスマデウイ事務局長は、持続可能なパーム油の生産を拡大することで、森林を保護しながら、パーム油の原料となるアブラヤシ農園をつくることができ、世界的な社会問題となっている森林破壊を防ぐことができると説きました。また、持続可能なパーム油の利用を今後も推進していきたいと述べました。

iCOOP協同組合開発センターのウォンカク所長からは、韓国のiCOOP Korea生協が進めている有機農業を含む環境に配慮した農業推進活動についてお話ししていただきました。iCOOP Koreaでは、組合員が農業体験を通じて環境保全について学ぶ活動も推進しています。

アジア基金の助成金は、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）のインドネシア事務局長イブ・デシ・クスマデウイ氏の旅費に使わせていただきました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

今回のセミナーの参加者は、ICA-AP生協委員会の委員とICA-AP地域総会参加者でした。セミナーには約30名が参加しました。

アジア基金の助成金は、今回のセミナーの講師の旅費に充てられました。

参加者は、セミナーを通じて、環境を保護しながら事業を進めることの重要性について学ぶことができました。



RSPOの活動について報告するクスマデウイ事務局長



環境に配慮した農業推進活動について報告するウォンカク所長



熱心に報告を聞く参加者たち

国際協力助成企画 ⑥

実施組織名 | 全国大学生生活協同組合連合会

ICAアジア太平洋地域大学/キャンパス生協委員会 学生交流企画

助成金額 400,000円

実施期間 2014年9月19日～20日

相手国 インドネシア・バリ

◆さまざまな企画を通して、学生や職員が活発に交流しました

1) 活動・事業報告

インドネシア・バリでICAアジア太平洋地域総会および大学/キャンパス委員会が行われました。この機会を活用し、現地の大学や高校訪問などさまざまな企画を通して、学生や職員が活発に交流しました。

9月19日のアジア学生交流企画では、ICAAP大学キャンパス生協およびインドネシアの学生協同組合の参加者で活動報告プレゼンを行いました。(日本2人、韓国2人、フィリピン3人、タイ2人、シンガポール5人 学生は計14人、その他、ネパールの農協から2人、上記国の職員計18人 合わせてICAAP側は34人、インドネシア全国から5-6の学生生協の代表者が参加(15人程度))

また、ウダヤナ大学において学生生協と職員生協の2種類の生協を視察しました。学生が運営する生協では、食品、文具、Tシャツなどを販売しており、約30人のコアメンバーが中心になって運営していました。協同組合における事業の方法を学び、社会に出てからは協同組合形式の起業も視野に入れているという話を、アジア各国からの参加者と共有しました。

9月20日のフィールドワーク企画では、インドネシア政府が戦略的につくったICT教育大学であるSTICOMバリ大学を訪問しました。学生数は約6,000人でバリ文化プログラムを実施している大学です。

第3高校とその生協も視察しました。生徒が運営する生協では、生徒が手工芸品などを作り、それを販売することで、経営的な考え方の取得を目的としているという話を、アジア各国からの参加者と共有しました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

インドネシア全国の大学から、この学生企画のために15人程度の学生の参加があり、インドネシアの学生およびアジア各国の学生の交流や学びが積極的に行われました。

2015年はタイのバンコクにて地域ワークショップを予定しています。多くの学生が参加し、積極的な交流ができるような機会を提供したいと考えています。



学生のグループ討論の様子



ウダヤナ大学生協訪問の様子



全体写真

国際協力助成企画 ⑦

実施組織名 | 日本医療福祉生活協同組合連合会

日韓医学生研修交流

助成金額 900,000円

実施期間 2014年7月22日～26日

相手国 韓国

◆韓国の医学生が日本の医療福祉生協の事業や活動を学びました

1) 活動・事業報告

韓国の医療福祉社会的協同組合から医学生9名、医師1名が参加し、医療福祉生協連について学ぶとともに、東京保健生活協同組合（以下、東京保健生協）の医療・介護事業と組合員活動を視察・体験実習を行いました。

東京健生病院、鬼子母神診療所、鉄砲洲診療所の医療施設、介護老人保健施設、訪問介護事業所、グループホームなどの介護福祉施設、組合員活動の拠点である「柿の木ハウス」を視察しました。柿の木ハウスは、空き家を改修し、地域の組合員が集まり健康チェックやサークル活動を行っています。視察では、組合員から柿の木ハウスの設立経緯や運営方法、組合員活動などを聞きました。韓国医学生がお礼に「アリラン」などを歌うなど楽しい交流ができました。

また、東京保健生協の医師2人による学習講演を行いました。1人目は、漢方外来や医療福祉生協の医師として働くことについて、診療所の歴史や医師人生の歩みについて講演しました。2人目は、「診療所の医療活動」として家庭医の育成や家庭医としての日常診療活動について講演しました。両講演ともに韓国医学生の興味関心に符合し、多くの質問や意見が出され予定時間を大幅に超過しました。また、講演後の交流会においても質問や意見交換が尽きず、医学生が医師として人生を歩むにあたってとても有意義な交流となりました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

本企画はアジア生協協力基金の助成を受け、2013年度に引き続き2年連続で実施しました。2年連続で企画に参加した韓国の医学生もあり、着実に日韓の医学生と医療福祉生協の交流がすすんでいます。両国の医学生が互いの医療や介護、文化の共通点や差異を確認し、医療福祉生協の医師として働く意義や悩みを共有することで、両国の医療福祉生協の発展に寄与しました。



組合員が行う健康体操を実践



通所リハビリテーションを見学し、利用者と交流



学習講演で医療福祉生協の医師として働く意義と責任を学んだ

一般公募企画 ①

実施組織名 | 特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会

エイズプロジェクト運営能力向上
およびタイ新財団組織運営能力強化のための人材育成研修

助成金額 900,000円

実施期間 2014年4月1日～2015年2月28日

相手国 タイ

◆成果のモニタリングや予算・事業管理が前進しました

1) 活動・事業報告

タイのラオス国境地域ウボンラーチャターニー県の3つの郡で、HIV陽性者、男性同性愛者、ラオス人移住労働者を含む性産業従事者の健康が改善されることを目的として、HEALTH AND SHARE FOUNDATION（前シェアタイ事務所、以下、HSF）と共同で以下のエイズプロジェクトを実施しています。

＊HIV陽性者自助グループの定例会開催、HIV陽性者リーダーによるHIV陽性者への家庭訪問/カウンセリング支援、HIV陽性者リーダー育成、教材作成

＊男性同性愛者グループへの啓発と家庭訪問、男性同性愛者リーダーの育成、エイズキャンペーン

＊ラオス人移住労働者を含む性産業従事者へのHIV予防啓発、移動クリニック

助成を受けて、HSFが質の高いプロジェクトを運営するために、成果を定期的に評価し見直していくモニタリングシステムを確立すること、および予算および事業管理が実施できるようになることを目指して、エイズプロジェクト運営能力向上および組織運営強化のための人材育成研修を実施しました。

事業内容は以下のとおりです。

i) プロジェクト運営能力強化のためのスタッフ研修（計画→実施→分析/評価→再計画→実施の一連のプロジェクトマネジメントのフォローアップ）

ii) プロジェクトのモニタリングシステムの確立、実施、フォローアップ（成果確認のための定期的モニタリングミーティングの実施とそのフォローアップ、年次計画会議での成果と課題の最終化）

iii) HSFの組織運営、事業予算管理とモニタリング、フォローアップ

2) 助成金を受けての成果とその評価

i) 成果を定期的に評価し見直していくモニタリングシステムを確立する。

→ほぼ達成されました。エイズプロジェクトのフレームワークの見直しを行い、プロジェクト目標、期待される成果、指標を修正しました。HSFスタッフとともに指標項目に沿って成果の確認やその分析ができました。2015年はHSF自身で成果表をまとめ四半期毎の成果報告書を作成してもらう予定です。

ii) HSFの基盤構築のために予算および事業管理が確実にできるようになる。

→ほぼ達成されつつあります。会計担当スタッフおよびHSF事務局長が、四半期毎の予算実績管理表を作成し、予算と実績の対比分析ができるようになりしました。会計担当理事ともHSFの予算管理の共通認識を築くことができました。ルーティン事業もほぼ計画通りの時期に活動を実施できました。活動予算のダブルチェック体制も作りしました。



研修を受けたリーダーが運営する
HIV陽性者の定例会



組織の問題分析・目的分析を共有し、
2015年の事業計画を議論した年次計画会議



スタッフが学んだ活動運営について、
男性同性愛者リーダーに研修中



研修を受けた男性同性愛者リーダーが
カラオケ・バーで働く性産業従事者に
HIV予防啓発をしている

一般公募企画 ②

実施組織名 | 公益財団法人PHD協会

「くらしの拠点」づくり
～生協店舗がコミュニティの核になることを目指して～

助成金額 700,000円

実施期間 2014年5月1日～2015年3月30日

相手国 ネパール

◆無農薬野菜のブランド化を目指します

1) 活動・事業報告

- i) 現地との協議およびレクチャーを実施しました。
 - *新プロジェクト地、ネパール・ピンタリ村に生活協同組合コープこうべ職員1人、PHD協会職員1人を派遣し、生活協同組合のレクチャーを実施しました。
 - *ピンタリ村農業協同組合のメンバーと「くらしの拠点づくり」について協議しました。
 - *新カウンターパートのSAGUNと今後のプロジェクト遂行について協議しました。
- ii) 現地での第一次研修としてマーケティング研修を実施しました。
 - *12月27日～29日、外部講師によるマーケティング研修を実施。参加者はピンタリ村および近隣の村からキーパーソンたちが17人でした。
 - *PHD協会職員がモニタリングのため上記研修に参加しました。
 - *研修および協議の結果、次の点がポイントして確認されました。「生産にかかっている実費を把握し、経費を減らす」、「仲買人を介さず直接市場に売ることによって利益を増やす」、「ブランド化」、「コミュニティを販売先として契約を結ぶ」、「先進地域を訪問し学ぶ」、「協同購入、協同販売を行うためのグループを作る」。
- iii) 現地での第二次研修として先進地域訪問研修を実施しました。
 - *SAGUNのコーディネートにより、先進地域としてクワンプル郡ファケル村を選出し、ピンタリ村農業組合メンバーを中心に交流・研修を行いました。



外部講師を招いて村人を対象に行われたマーケティング研修

2) 助成金を受けての成果とその評価

- i) 現地の農業協同組合の課題の抽出と共有

現地の協議およびレクチャーを受けて、現地の課題が「野菜を作ることには出来るが、安価に買い叩かれるために、農民の手元に利益が残らないこと」であることが確認されました。またその理由として「情報や知識の不足のためにみなが同じ品目を作ってしまうこと」、「仲買人グループの存在があり、それらを介さずに販売すると嫌がらせなどを受けること」などが確認されました。
- ii) 今後の活動方針の明確化

12月に実施した研修で、今後の活動方針として、無農薬野菜を売りにしていくこと、「ピンタリ村の有機野菜」としてブランド化を試みていくことを明確化しました。
- iii) 課題に沿った研修の実施

先進地域であるファケル村への訪問研修を実施し、モデルケースとしてブランディングを図ります。買いたたかれなための販売方法として「都会の富裕層コミュニティとの提携」か「都会での直売店舗の設立」を検討していきます。



コープこうべ職員によるレクチャー。
講師が掲げているのは賀川豊彦の写真

一般公募企画 ③

実施組織名 | 特定非営利活動法人APLA

エルメラ県のコーヒー生産者グループの協同性の強化
ならびに次世代リーダーの育成

助成金額 812,019円

実施期間 2014年4月1日～2015年2月28日

相手国 東ティモール

◆リーダーが育ち、女性グループの成功事例も生まれました

1) 活動・事業報告

2014年度は、「コーヒーだけに頼らない地域づくり」をめざして協働を進めてきたコーヒー生産者4グループを中心に、中長期的に協同組合へと発展できるような取り組みを進めました。うち1つのグループが、ここ2年間の女性グループの活動が原動力となり、生産者協同組合として政府の登録が完了し、かつ自分たちの活動（食品加工）に必要な加工設備の建設費用の補助金を得るという成果を出すことができました。他のグループにとっても大きな励みとなりました。

助成金を受けての活動として、

i) 2013年度に研修を受けたリーダー候補者の育成策として、風土にあった持続可能な農業技術の普及により、地域の生産物の多様化、協働体制の強化をはかることを課題として設定した実地研修を、1年間にわたり継続して行いました。

ii) 女性のためのワークショップを2015年2月に開催しました。前述の協同組合化を果たしたグループの代表たちが、まだ活動に取り組めていないグループを訪問し、進めてきた活動の経緯、成果、課題などを共有することを軸に、議論を行いました。後者のグループのメンバーたちが「自分たちが何をしたいか、地域にある資源、困難は何か」などを洗い出し、外部から助言をもらいながら、今後どのような協同の取り組みを進めることができるかを深く考える機会となりました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

i) 複数名の次世代リーダーが切磋琢磨しながら成長し、研修で得た知識や技術を地域住民に伝え、生産物の多様化の取り組みを進めています。現地職員が、活動の支援に加え評価のワークショップを実施し、自分たちの活動の成果や課題を明らかにする習慣が身に付きつつあります。

来年度は、「人を動かす力、グループをまとめあげる力」を会得できるようなプログラムを準備し、各グループの協同活動に還元されていくことをめざします。

ii) すでに活動が軌道に乗って自信をつけつつあるグループの経験を共有することが、双方にとって大きなエンパワメントになりました。経験を語る側にとっては、説明する訓練ができ、評価を受けて自信が増します。聴いたグループは大きな刺激を受けた結果、地域で育てた大豆でテンペ※の製造を協同で行うという目標を立て、来年度に具体化の予定となりました。そうした取り組みを経て、再度女性たちの交流ワークショップを開催していきたいと考えています。

※豆腐と納豆の間のような発酵食品



地域住民に持続可能な農業の技術を指導する次世代リーダー候補者たち



女性グループの経験交流ワークショップ。
子どもを抱えながら、真剣な意見交換が続きます

協同組合として登録されたグループ。
地場産の柑橘を使ったワイン製造が
軌道に乗り始めています



一般公募企画 ④

実施組織名 | NPO法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会 <ASHA>

アラハバード県における有機農業組合運営強化と人材育成

助成金額 900,000円

実施期間 2014年4月1日～2015年2月28日

相手国 インド

◆農村の改善・開発や女性の社会的地位向上に大きく貢献

1) 活動・事業報告

主に以下の活動を行いました。

i) 6月に現地派遣日本人スタッフ4人とインド人組合スタッフ2人が日本の7県の農場や食品加工業者を訪問し、研修・視察を行いました。

ii) 以下のセミナー・講習を実施しました。7月有機農業組合メンバー(稲作)/8月アラハバード有機農業組合(以下、AOAC)農家(有畜複合農業)/9月組合加工部門スタッフ・学生(うどんの打ち方)/12月栽培農家(アヒル水稲同時作など)/2月組合栽培農家(光合成細菌・除虫菊)/2月栽培農家・消費者など(有機農産物)

iii) 組合の畜産加工品・調理品・有機野菜などを訴求販売するために、11月と2月にフードフェアを開催しました。

iv) 醤油製造について、9月に絞り機を導入し、中間報告書を提出しました。2月に醤油麹の専門家から指導を受けました。

v) 2月に有機農業に関する研修旅行を実施しました。

vi) 小規模組合(ミニコープ)に対し、3月に巡回点検と運営説明を行いました。3月に会議を持ち、組織状況を確認し、意義や今後の方針などを確認しました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

以下の成果から、農村の改善・開発および女性の社会的地位の向上に組合活動が大きく貢献することが理解され、励みや希望、重要な原動力となりました。

i) 組合専任スタッフの能力と知識の向上が果たせ、意識と物事に取り組む姿勢をよりよい方向に変えることができたことは大きな成果でした。特に日本での研修では、生産者と消費者との信頼関係、組合員同士の信頼関係の大切さが理解できました。日本の食品加工で求められる品質管理水準の高さ、健康食品での差別化についても学びました。

ii) AOACの下部組織として、4～5人からなるミニコープ5団体が設立され、地域に根差した活動を目指していくことが明確化しました。

ミニコープ内に食品加工を担えるような人材を育成し、農村女性の所得向上にも寄与していくことを確認しました。

他方、以下は2015年度の課題です。

i) AOACスタッフが未だに現地の日本人スタッフに頼りすぎているので、自立を図ります。

ii) 参加している農民はすべて男性なので、女性の参加を促す必要があります。

栽培農家の稲に関する勉強会。

栽培農家はそれぞれの稲を持ちより、生育をチェックしました



AOAC主催のフードフェア。
連日500人以上の来場者があり、販売は好調でした



AOAC農家、スタッフの集合写真。
何人かが掲げているのは除虫菊の蚊取り線香

一般公募企画 ⑤

実施組織名 | 特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

ミシン縫製技能研修と服飾販売促進のための店舗開店。
それに伴う組合づくり

助成金額 796,600円

実施期間 2014年4月1日～2015年2月28日

相手国 インド

◆女性たちが自立に向けた一歩を踏み出しました

1) 活動・事業報告

i) 2010年、足踏みミシン10台を導入。女性の自助努力グループSHGから希望者を募り、基礎コースとして年間50人、以降3年間で150人が受講しました。SHGでは、修了者のうち5人がローンでミシンを購入し、自宅で縫製を受注して現金収入が得られるようになりました。少数にとどまったのは、基礎コースの技能ではできる製品も限られ、十分な収入にはならないためです。

助成が開始した2012年には、工業用ミシンを導入して縫製技術のレベルを上げ、服飾工場からの受注を開始。2013年には注文が定期的に来るようになりました。

2014年には特殊加工のできるミシンも導入することができ、服飾工場5社から縫製依頼が来るようになりました。そして縫製できる製品の数が増えました。

ii) 支援助成金では、ミシンの購入に加え、現地NGOの担当者が店舗開設のための準備を行い、1店舗を開設しました。

生産から販売までを直接女性グループが行う方式を取り、服の市場価格も調べて、純利益が見込める販売価格を設定しました。

iii) 現在、縫製作業員は1日200～300ルピー、店舗販売員は1日150ルピーの収入が得られるようになりました。

iv) 今後は収益金をプールして新たなミシンを導入して受注の安定化を図っていくことで、女性の雇用をさらに広げていくことができます。

2) 助成金を受けての成果とその評価

インドの農村部での女性の仕事は限定され、雇用の機会を生み出していくことは貧困の軽減にもつながっていきます。女性が現金収入を得られるようになると、家庭での衛生や栄養の改善、子どもの教育費などに回すことができます。児童労働や出稼ぎをなくすることもできるようになります。女性が高等教育を受けられるような環境をつくり、希望する職業につくことができるようになります。

現地NGOも、SHGに縫製技術だけではなく現金収入につながるプログラムの創出をアドバイスし、研修の機会を設け、情報収集や提供を行っています。

今後は当会としても、パソコンやマーケティングの技能研修、起業に結びつくアイデア提供やアドバイスを行っていく計画です。

5年間の活動をとらえて、少しずつ自立に向けた一歩が踏み出せたと評価しています。

縫製された販売用製品



工業用ミシンで縫製する SHGメンバー



開店した服飾店の看板

一般公募企画 ⑥

実施組織名 | 特定非営利活動法人Seed to Table ～ひと・しぜん・くらしつながる～

有機生産者グループの設立と市場へのアクセス改善による
貧困世帯の生計改善事業

助成金額 819,120円

実施期間 2014年4月1日～2015年2月28日

相手国 ベトナム

◆有機栽培への理解度が上がり、農家の収入も増加しました

1) 活動・事業報告

ベトナム社会主義共和国ベンチェ省ビンダイ郡の2村、1町にて活動を実施しました。3つのグループの合計世帯数は30世帯。主に以下の活動を行いました。

i) 有機農業技術研修：8回、のべ75人が参加。内容は、輪作・混作/雨の被害抑制法/有機農業資材。

ii) 能力向上研修：5回、145人が参加。内容は、農産物の生産・品質管理・モニタリング/会計/マーケティング。研修後、相互チェックも7回実施しました。

iii) 消費者と生産者との交流会：生産グループの代表と小学校の教員・父母14人が参加し、経験交流会を行いました。有機野菜のおいしさを伝えることができました。

iv) 月例会合：生産者グループとの月例会合15回、参加166人。6月に発足した郡のインターグループとの定期会合3回、参加42人。建設中の新市場内への有機野菜コーナー設置が検討されています。10月に発足した省の有機PGS(参加型認証制度)コーディネーショングループとの定期会合2回、参加23人。

v) 評価会合：有機野菜生産者グループ、省の関係機関、農民団体など57人が参加。有機農業技術の実践度合いや困難、良かった点などを共有しました。有機農業のプロジェクト拡大の要望が寄せられ、2015

年度からの実施が決まった郡もあります。

vi) モニタリング：情報共有を行い、課題などを早期に把握することに努めました。

vii) 農業資材支援：雨と日差し避けのネットを30世帯に支援。野菜収量が増加しました。

2) 助成金を受けての成果とその評価

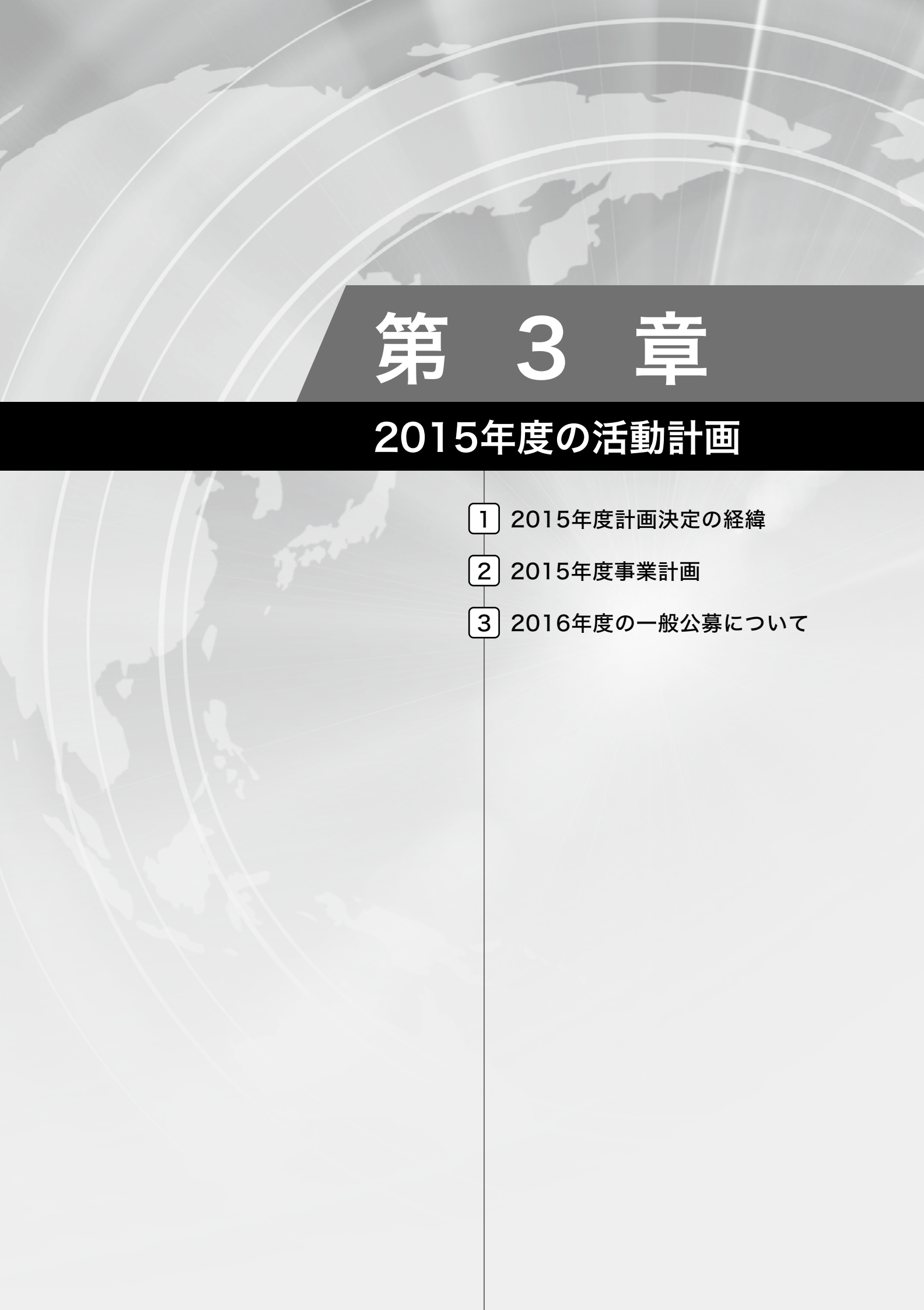
i) 評価のためのアンケートを実施し、以下のよう
な結果を得ました。栽培面積は全体で1ha、1世帯平均0.05ha / 平均7.6種類の野菜を栽培 / 有機栽培への平均理解度は、研修前48%→後71% / 79%の世帯が生産計画を立案 / 78～100%の農家の収入が増加。理由はコスト削減や栽培技術の向上。価格は市場価格と同等 / 課題は「乾季の水不足」、「堆肥用の牛糞不足」、「労力がかかる」など。優位点は「技術的に難しくない」、「生産コスト低減」、「生産者と消費者の両方の健康に良い」、「現金収入増」 / 今後の希望は「面積増」「井戸」「堆肥の原料確保」。

ii) 地元の市場でも「クリーンな野菜」として認知され始め、購入希望者が増えています。今後は消費者との連携を強化し、有機農産物の広報に努め、環境に配慮した地域づくりを推進していきます。



インターグループの設立会合

能力向上研修
(農産物の生産・品質管理・モニタリング)ベンチェ町小学校の教員・父母代表と
生産者グループの交流会



第 3 章

2015年度の活動計画

- 1 2015年度計画決定の経緯
- 2 2015年度事業計画
- 3 2016年度の一般公募について

第3章 2015年度の活動計画

1 2015年度計画決定の経緯

アジア生協協力基金の事業活動は、これまで毎年、その年度に想定される基本財産の利子相当分を財源とし、助成事業は、1) 国際協力事業（日本生協連・国際活動委員会が定める事業）、2) 一般公募助成事業、3) 生協総研の独自事業の3事業が行われてきました。

2015年度の助成事業予算枠は、一般公募を2014年10月から実施するため、他の予算に先駆けて、生協総研第1回理事会（2014年7月31日開催）において論議し、国際協力助成事業に600万円、一般公募助成事業に600万円、会議費等に350万円の総計1,550万円とすることを決定しました。

アジア生協協力基金第3回運営委員会（2015年1月21日）において、上記予算枠での助成事業に加えて、委員会で2年間論議してきたアジアの助成先の成果確認事業を2015年度に実施することとし、この事業予算として350万円を計上、2015年度予算を1,900万円とすることを決定しました。また、生協総研の一般公募では、12月25日の書類審査、2014年1月22日のプレゼンテーション審査を経て、7企画、5,997,000円の助成を決定しました。また、2014年度には、独自企画は行わないこととしました。

これらを総計した2015年度の事業計画と予算案は、2015年2月5日に開催された生協総研第4回理事会で承認されました。

さらに、2016年度の国際協力助成事業と一般公募助成事業の助成大枠については、2015年4月16日に開催された2015年度第1回運営委員会で論議し、2015年度同様の1,200万円とし、生協総研理事会に提案することを決定しました。

2 2015年度事業計画

(1) 国際協力助成事業

日本生協連・第2回国際活動委員会（2014年12月19日、ソウル）で起案され、アジア生協協力基金2014年度第2回運営委員会（2014年12月25日）で確認された7企画に対して600万円の助成を行います。なお、この企画には、全国大学生協連と医療福祉生協連による企画がそれぞれ1件ずつ入っています。

◆2015年度国際協力助成事業一覧

相手国		企画名	予算額(円)
1	アジア	ICA-AP選抜生協マネジャー研修1	1,650,000
2	アジア	ICA-AP選抜生協マネジャー研修2	1,850,000
3	シンガポール (開催国)	ICA-AP生協委員会主催 生協経営ワークショップ	400,000
4	マレーシア (開催国)	ICA-AP生協委員会主催 生協セミナーへの講師派遣	500,000

相手国		企画名	予算額(円)
5	マレーシア (開催国)	ICA-AP生協委員会主催 フェアトレードセミナー	300,000
6	タイ(開催国)	(全国大学生協連)ICAアジア太平洋地域大学／キャンパス生協委員会セミナー	400,000
7	ネパール	(医療福祉生協連)日本・ネパール保健医療交流	900,000
合 計			6,000,000

(2) 一般公募助成事業

2015年度の一般公募は、2014年10月1日から11月30日まで生協総研のホームページをはじめ、日本生協連会報・組合員活動情報さらに東京ボランティアセンターや国際協力NGOセンター(JANIC)、公益財団法人助成財団のホームページで募集案内を広報しました。

この結果、26事業(応募組織数は25)の応募をいただきました。第2回運営委員会での書類審査で8組織を選考し、第3回運営委員会でのプレゼンテーション審査を経て、最終的に7組織への総額5,997,000円の助成を理事会に提案することになりました。なお、プレゼンテーション審査では、現地の人々の力の引き出し方が不十分な1件を対象外とし、資金力がある組織の人件費の一部を削減して承認しました。

◆2015年度一般公募助成先一覧

申請者		事業概要	助成額(円)	実施予定国
1	コープおきなわ	ラオスにおけるラオラオ酒の品質改善及びブランド構築、販路開拓、サイー村での生産者協同組合の結成	998,000	ラオス・サイー村
2	一般社団法人 わかちあいプロジェクト	ミャンマー国カヤ州におけるコーヒー栽培農家への生産者組合設立支援	1,000,000	ミャンマー・カヤ州
3	NPO法人アーチャー＝アジアの 農民と歩む会(ASHA)	北インド・アラハバード県における有機農業組合運営強化と人材育成	1,000,000	インド・ウッタラプラデシュ州アラハバード県チャッカ郡、コンディアラ郡、シャンカルガール郡
4	特定非営利活動法人 AMDA社会開発機構	青年グループの能力強化と活動運営支援を通じた地域活性化プロジェクト	599,000	ネパール連邦民主共和国・中部開発区域バグマティ県カブレパンチョウク群カールバチョウク村
5	特定非営利活動法人シェア (国際保健協力市民の会)	エイズプロジェクト運営能力向上および組織運営強化のための人材育成プロジェクト	800,000	タイ・ウボンラーチャターニー県ケマラート郡
6	特定非営利活動法人APLA	東ティモール・エルメラ県のコーヒー生産者グループの協同性の強化ならびに次世代リーダー育成	900,000	東ティモール・エルメラ県エルメラ郡、レテフォ郡、ハトリリア郡の4村
7	公益財団法人PHD協会	「くらしの拠点」づくり～生協店舗がコミュニティの核になることを目指して～	700,000	ネパール・カブレパンチョウク群マンガルタールVDC
合 計			5,997,000円	

(3) 新規事業：一般公募・助成成果確認事業

5年間で助成事業の運営など内部課題の整理が一定程度進んだため、今後、助成先の課題に対する対策にとりくみます。基金創設の理念に基づき、他の基金と比較したアジア生協協力基金・助成事業のいくつかの健全なモデル、生協総研の公益事業ならではの事業の確立を目指します。

このため、運営委員会による、初めての現地視察を計画いたします。趣旨は以下のとおりです。助成の成果を一層、確実に引き出すためには、急速に変化を遂げるアジアの現状への認識を強化することも必要となっています。助成先を通じた情報取得から、委員会における認識として、現地における事業の定着度、助成組織と現地パートナーとの関わり方、パートナー組織とその地域での住民との結び付きなど、助成の成果とそのバックグラウンドへの認識を通じた助成への判断が、モデル作りに必要となってきました。また、一般公募助成事業と国際協力事業とを連動させる新たな試みも模索されてきていますが、こうした判断にも、現地事情の認識が欠かせません。

この助成成果確認事業は、視察者を総数8人（運営委員5人、総研2人、日本生協連・国際部1人）で構成し、アジア2ヶ国、8日間程度を想定します。

4) 全体予算

助成金総額は約1,200万円、事業関連経費140万円、事務管理費210万円を加えて1,550万円を基本予算とします。

新規事業として「助成成果確認事業」の経費として約350万円を計上します。これにより2015年度予算は、総計で約1,900万円とします。

	2015年度予算	2014年度予算	2014年度実績
国際協力助成企画	6,000,000 円	6,000,000円	5,091,646円
一般公募助成企画	6,000,000 円	6,000,000円	4,927,739円
事業関連経費	1,400,000 円	1,400,000円	1,306,426円
事務管理費	2,100,000 円	2,100,000円	2,154,235円
成果確認旅費等経費	3,500,000 円	—	—
合計	19,000,000 円	15,500,000円	13,480,046円

▶ 事業関連経費140万円の内訳；

2014年度活動報告書の印刷費用60万円

2015年度運営委員会会議費等30万円（3回分）

2015年度公募審査参加旅費等20万円

2014年度活動成果報告会旅費・交流会会費（2015年4月）、30万円

＊事務管理費は、公益財団法人会計に基づき、当該年度の実績に基づいて計算され通常200万円前後となります。

3 2016年度の一般公募について

「2016年度の一般公募助成事業」は、アジア・太平洋地域における人々の協同事業の発展、および、地域コミュニティの課題解決をはかるための人材育成などを行う日本国内組織に対して、2015年10月1日から11月30日まで公募を行います。公募の案内は、生協総研のホームページのほか、日本生協連や協力いただけるNPO・NGOの中間支援組織のホームページなどでご案内いたします。助成先は、2015年12月の運営委員会による書類審査、2016年1月開催の書類審査通過組織を対象としたプレゼンテーション審査を経て2016年2月の生協総研理事会で決定します。

アジアに架ける虹の橋
アジア生協協力基金活動報告書
2015 年度

編集・発行：公益財団法人 生協総合研究所
(協力：日本生活協同組合連合会・国際部)

〒102-0085
東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F
TEL.03-5216-6025
メールアドレス：ccij@jccu.coop
ホームページ：http://www.ccij.jp/



アジアに架ける虹の橋
アジア生協協力基金活動報告書
2015